



EBC は、日本法令外国語訳プロジェクト作業部会のために以下の点を挙げたい:

- その目的のために作成可能な AI ソフトウェアを使用して、すべての日本法令を翻訳できるようにする(AI ソフトウェアは今日非常に優れており、正確である)。このシステムは、法改正があれば直ちに AI を使って自動的に翻訳される(すべての翻訳で学習を続け、より正確になる)ように作ることができる。ユーザーにとっては、時代遅れではあるが正確な翻訳よりもむしろ、最新の日本法令の大まかな翻訳の方がより価値がある。残念ながら、多くの翻訳された法令は、現在の方法では多くの段階を踏んで訳されており時代遅れとなっている;
- 翻訳には拘束力がないという明確な免責事項があるはずである;
- AI のみを用いて行われた翻訳と、専門家によって検証された翻訳とを明確に区別することを推奨する。これは、ウェブサイト上で明確に示されるべきである;
- また、英語翻訳は、より正式な性格を持つために、法令の日本語版が入手可能になるようウェブサイトに統合されることを推奨する。現在、利用可能なプラットフォームは、法務省の支援する正式な翻訳であるという印象を与えるものでもなく、利用者にとっては、これが法令を探すのに正しい場なのか不確かである;

結論: 非常に進歩した AI 翻訳技術により、法務省は、すべての日本法令を自動的に翻訳し、更新し続ける AI 翻訳プラットフォーム(常に学習し、改善する)の作成を検討すべきである。翻訳は 100% 正確ではないかもしれないが、少なくとも最新であり、全ての翻訳に関してシステムがより良いものになることが期待できる。その後、AI 翻訳は進行中のプロセスとして、専門家による校正を受けるべきである。校正された翻訳には、例えば、精度マークが付与される。専門家(または専門家グループ)による校正の工程は、AI システムが学習し、正確性を高めるのに役立つ。